

葉ノ業 (Arctium Lappa L.) ケン受テ害電

斯クテ一點ノ光明ヲ得タル先生ハ法ケ梨(學名ピルス・ジ
ンタロウアナ) いつまで梨(學名ピルス・ウ・ム・ラナ)ノ
名ト共ニ豐榮昇ル大君ノ御國ノ續カン限リ在ラン限リ千
代萬代イツマデモイツマデモ輝クコトデアラウ
船ハ出デ行ク船ハ出デ行ク人生ノ航路ヲ指シテ悲喜交々
ノ人々ヲ乗セ浪路遙カニ進ンデ行ク先生ノ淋シクモ亦健
氣ニ進ム晩年ノ道將タ何レニカアル幸ニ無常ノ風ノ絶エ
絶エテ浪靜カナレカシト祈リツ、惜シキ拙キ筆ヲ擱ク

○杜仲軒緒鞭夜話 (七)

久 内 清 孝

降雹ノ實例

初夏ノ候降雹々々ト言フコトヲヨク耳ニスルガ其降雹ト
云フ事實ノ大ナルコトハ其實際ヲ見タ人デナイトお話ニ
ナラナイ、學校ナドデ幾ラ雹害ノ話シタリ新聞紙ニ雹害
ノ大キナ通信記事ガ出タノヲ見タ處デ降雹被害ノ實例ヲ
目睹シ得ナイ地方ノ兒童ナドニハ想像モツクマイ、余ハ
昨年五月十五日正午過ぎ頃採集ニ出デ幸カ不幸カ大降雹
ニ會シ東京地方ヲ襲ツタ有様ヲ目撃シ其被害區域ヲ一巡



(久内寫眞)

横濱ニ野生スルほうらいしだ (*Adiantum Capillus-Veneris* L.)

シタノデアルガ麥ノ穂ナドハ頂部ノ小穂ガ數個脫落シタリ
 マタ稈ガ中途デ折レタリシテ居タノヲ見タマタクぬぎ林ノ
 如キハ幼枝ガ切レテ飛散シ居ルノモアツタ就中ふき畑ヤ牛
 蒭畑ハ全ク慘タル光景ヲ呈シ葉體ハ何レモ射的場ノ使ヒ古
 シタ標的ト同様無數ノ貫通創ヲ受ケテ居タ依テ之ヲ撮ツタ
 モノガ此ノ寫眞(前頁)デアル若シ降雹ヲ見タコトノナイ人
 士ニ多少ノ參考ニモナランカト思ヒ此ニ掲出スルコトニシ
 タ、コレハ東京府下中新井村ニ於ケル牛蒭ノ葉ノ被害ノ狀
 況デアル

ほうらいしだノ自生力逸出カ

ほうらいしだ (*Adiantum Capillus-Veneris* L.) ガ本邦ノ暖
 地ニ自生スルコトハ既知ノ事實デハアルガ關東地方ニ於テ
 寫眞ノ如ク横濱根岸町ノ第三紀礫灰岩層ノ中腹及ビ其下方
 路傍ノ石垣ナドニ野生シテ居リ此事實ヲ余ハ明治四十一年
 頃カラ知ツテ居ル、隠レタル一事實トシテ此處ニ記錄シテ
 置クガ此處ニ問題ガアル其レハ此植物ガ古來自生シテ居タ
 モノデアルカソレトモ横濱開港以來外人ガ觀賞用トシテ舶
 載シ來ツテ培養シテ居タ所謂 *Maiden-hair* ガ何時カ人ノ
 知ラヌ間ニ逸出若クハ飛散シタ胞子カラ發生シテ野生ノ狀

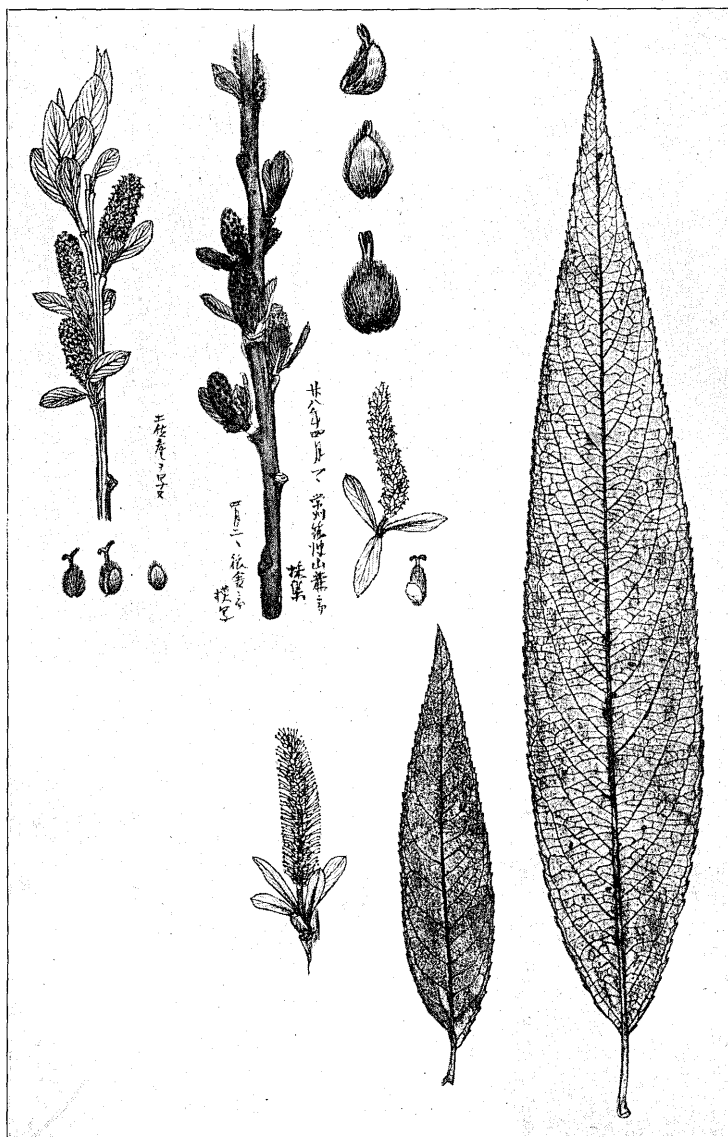
態ニナツタモノカドウカト云フ點デアル(近時江ノ島デモ見ツカッタガ之モ同様ナ原因デ存在スルラシイ)余ハコノ野生品ヲ鉢ニ移シ數年觀察シタコトガアッタガ培養品ニ見ル如キ葉ガ出ズ野生品ニ見ル如キ大型ノ小葉ノミ出テ來ルノヲ見タ、マタコレヲ曾テ田代善太郎氏ヨリ頂イタ熊本縣產ノモノトモ比較シテ見タガ形狀兄タリ難シ弟タリ難シデ其間確然タル差別ガ出來ナカッタ

自生デモ逸出デモタマほらういしだトシテ見ルトキハ別ニ問題トスル程ノコトハナイニシテモ分布ヲ考ヘル場合ニハ自生ト逸出トハ大分逕庭ガアルコト言フ迄モナイ、將來横濱「フロラ」ニ手ヲツケル人ハ先ヅコノ點ニ留意スル必要ガアロウト思フカラ一言シテ以テ後ノ君子ヲ待ツコトニスル

じゃやなぎノ名ノ起リ

「此世からちへ嫌はれて、深く心を奥の院、渡らぬ先に渡られぬ、みめうの橋の危さも、後世のみせしめ蛇柳や……」(集林子『女人高野山心中萬年草』)デ名高イ高野^{たかや}ノ蛇柳ハ高野奥ノ院息處石ノ南大河ノ南岸ニアツテ高野名所ノ一トシテ知ラレ『紀伊國名所圖繪』ヤ『紀伊續風土記』高野山^{たかやま}之部ナドニモ錄サレテ居ルガ知家朝臣ガ「咲花に錦おりかく高野山柳の糸をたてぬきにして」ト詠マレタト云フハ果シテコノ蛇柳ヲ指シタモノナカドウカハ知ル由モナイガ兎ニモ角ニモ高野ノ蛇柳ハ今尙健在シテ弘法大師ノ無量ノ功德ヲ久遠ニ傳ヘテ居ルト云フコトデアアル

其處デ植物學上ノじゃやなぎノ名モ原ヲ質セバ此柳デアアルコトハO. V. SEEMENノ『日本楊柳志』ノ中ニ明治廿九年八月白井光太郎博士ガ高野山デ採ラレタト云フ記事ノアルノデ想像ガ出來ル、此柳ノ學名ハ *Salix Pierotii* トナツテ居ルガ是ハ F. A. W. Miquel 氏ノ *Annales Musei Botanici Lugduno-Batavi*, Tom. III. Fasc. 1, p. 28 (1867). = *in promontoris Nomo Saki insulae Kiusu legiti Pierot - Fatsi Janogi jap.* ノ記事ニヨリ考ヘルト其採集者 *Pierot* ノ名ニ因ンダモノデアラウ然シコノ *Salix Pierotii* ノ名ニヨリ包含セラレテ居ルモノ、内ニハ色々ナ種ガ混ジテ居ルカラ現在デハ使用スベカラザルモノデアルトノコトダガ其様ナコトハ本邦最初ノ楊柳



白井光太郎博士ノ蛇柳ノ原稿圖(縮寫)

斷枝片葉 (其二十九)

家デアアル木村有香君ニデモ願ヒスルトシテ私ハ和名ノ由來丈ヲ記スコトニスル、即チじややなぎの名稱ハ恐ラク高野山ノ蛇柳ト云フ個體ニ存シタ名ヲ其儘白井先生ガ種ノ和名ニ採用サレタモノデハアルマイカ

尙蛇柳ノ蛇ニ就テハ同山中ノ地名デアアル蛇原ノ蛇ノ名稱ト共ニ色々ニ考ヘラレ友人田中法壽氏ノ如キハ『高野山文化史』ニ於テ民族史的ニ考證サレテ居ルガ恐ラク卓見デアラウ然シ『紀伊國名所圖繪』ニハ「溪流の畔にありいにしへは大蛇ありて妖をなす時に大師持咒したまひければ大蛇忽他所にうつりて其跡に柳生ぜり因テ此名ありといふ一説に遠く是を望めば蜿蜒裊娜として百蛇の逶迤するが如し因て名づく」と云ふ猶尋ねべし」トアルカラ是ニ因テ古事來歴ハホゞ窺ヒ知ルコトガ出來ルシ私ノ好奇心ハ此程度デモ満足出來ルカラ名稱ノ一元的解決ナドハドウデモヨイトシテオク(此處ニ掲グル寫眞ハ白井先生ノ物セラレタ蛇柳ノ原稿圖デアアル今參考ノ爲メニ此處ニ出シ貸シ下サツタ同先生ノ御厚意ヲ感謝スル)

【牧野曰フ】先年高野山デ植物ノ採集會ヲ催シタ砌同山幹部ノ或ル僧ニ此蛇柳ノ由來ヲ尋ネタラ其僧カラ「昔高野山ノ寺ノ内ニ一人ノ僧ガアツテ陰謀ヲ廻ラシ寺主ノ僧ノ位置ヲ奪ヒ自ラ其位ニスワラントシタコトガ發覺シテ捕ヘラレ後來ノ見セシメノ爲メ其僧ヲ生埋メニシタ處ガアノ場處デ其處ヘアノ通り柳ヲ栽エ右ノ様ナ事情ユエ其罪惡ヲ示サンガ爲メ其柳ノ名モ蛇柳ト名ケタヤウダ」ト言ヒ聞カサレタコトガアツタガ之レハ此僧一人ノ想像カ又ハ同山一般ノ傳說カ其邊ノ事ヲ聽キ漏ラシタノハ遺憾デアアルガソレハ詮義スレバ直グ判ルコト、思フ

○斷枝片葉 (其二十九)

牧野 富 太 郎

●みつがしは乎みつがしは乎 りんだう科ノ水艸ニ學名ヲ *Menyanthes trifoliata* L. ト云フ者ガアル世人ハ能ク之レヲみづがしはト呼ンデ居ルガ是レハみつがしはデナケレバナラヌ即チ三ツ櫛ノ意デ其葉ガ紋ノ三ツ櫛